

地域支援だより

きらりNet



令和2年7月17日

第104号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

病弱教育サポートセンターきらり☆の取組について

きらりNet 第102号で「病弱教育サポートセンターきらり☆」開設を紹介しました。開設から3か月、医療機関や教育機関、学校関係者から多数の問い合わせをいただき、情報提供や相談支援、学習支援を行っています。今号では具体的な取組の内容を紹介します。

① 県内の病弱教育対象幼児児童生徒への支援

- 全県の幼稚園・保育所・認定こども園等、小・中・高等学校、特別支援学校に在籍する病気の子どもへの支援として、入院中や自宅療養中の学習支援、生活に関する相談支援を行います。
- 必要に応じて地域の特別支援学校と連携し、教育相談や教育活動への支援を進めます。

② 入院児童生徒への相談支援

- 入院する子どもやその保護者のニーズに応じて、病院や在籍する学校・園との連絡調整、復学までの支援を行います。
- 学習支援を希望する場合は、秋田大学の学生が中心となっている病児学習支援ボランティア人材バンクと連携してオンライン等で学習支援を行うこともできます。
- 秋田市内の病院では、在籍する学校と連携し、病室での自学をサポートする形で学習支援を行うケースもあります。

③ 県内病弱・身体虚弱特別支援学級とのネットワークづくり

- 特別支援教育セミナー(県事業)や病弱・身体虚弱特別支援学級設置校への訪問(本校の取組)を通して、ネットワークを構築し、ニーズに応じた情報提供等を行います。

④ 中通総合病院との連携

- 小児科病棟入院の児童生徒には、病院内訪問教育を行います。きらりNet84号、97号参照
- 小児科病棟入院の幼児を対象に幼児教室「きらり☆ひろば」を行っています。きらりNet84号、100号参照

⑤ 情報提供として…研修会の実施、きらりNetの発行

- 例年、夏季休業中に実施している「地区別研修会」は、今年度新型コロナウイルス感染防止のため中止します。
- 令和3年1月8日(金)に「秋田県病弱教育研修会」を本校で実施する予定です。内容等決定次第、関係各位に要項を送付し、ホームページでもお知らせします。

② 秋田市内の総合病院における短期入院児への学習支援



市内の病院に入院している児童生徒を対象に、本人や保護者、医師のニーズを受け、学習支援や相談支援を行っています。在籍校が準備した課題と一緒に取り組んだり、不安や心配の聞き取りや在籍校との連絡調整を行ったりしています。

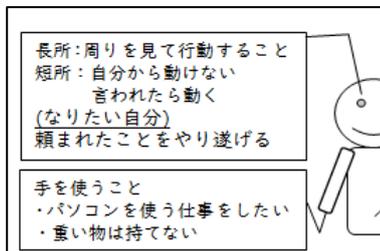
④ 中通総合病院内幼児教室「きらり☆ひろば」



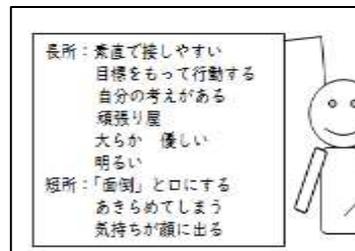
治療の合間の楽しい時間、無邪気に遊べる時間になるよう、また、季節や生活などの日常を感じられるように、歌や読み聞かせ、制作活動を行っています。一緒に活動するご家族や病院スタッフ、私たちも一緒に楽しく活動しています。

実践紹介② 自立活動 【高等部】高等学校の教科を学習する生徒 ～自分に合った生活や進路を考える取組～

将来自立した生活を送るためには、生活しやすい環境を選んだり自分で整えたりすることや、力を発揮できる仕事を選択することが大切です。周囲のサポートを受けるとしても、何にどんな助けが必要なのかを知っていなければなりません。それらを自分で考えられるようになることを目指した高等部1年の自立活動の取組を紹介します。



自分目線



他者目線

①自己分析～自分目線と他者目線

自分が考える自分と身近な人から見た自分を比較し、自己理解を深められるようにしました。

②他者への発信～私のトリセツ（取扱説明書）

自分の力ではできないこと、予防の難しい体の不調などがあるとき、相手に分かりやすく伝えて助けや理解を得られるように、自身についての説明書を作成しました。

例：目の内側に傷がつくと、3日間程度目を開けられなくなる。

1カ月に1回程度で急に起こる。毎日目薬を差しているが、他に予防のためにできることはない。

③自分に合った仕事～事務室の見学、電話対応体験

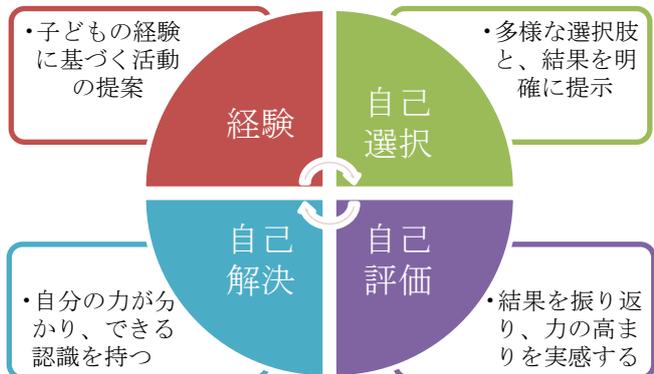
自己分析を通して、卒業後はパソコンの操作を行う事務職が自分に合っていると考えました。そこで、希望する事務職の見学や経験を通して、できることや必要とされる力を具体化することにしました。電話対応体験では、事務室にある電話を使い、学校の職員からの電話に対応しました。原稿を用意し、事前に手順を確認して臨みましたが、相手とのやりとりや、電話の操作の難しさを実感しました。それでも、自分にとって「できないこと」ではないため、経験を積んで力を付ける必要を感じることができました。（文責：柿崎和恵）



教育専門監のコーナー

《生徒の自己実現に向けて》 【主体性を大切に授業づくり】

4つの要素 [長澤正樹(2014)]



〈参考：「障害のある児童生徒の 自己選択・自己決定を支援する」〉

高等部では、すべての生徒が自分の意思、願いに基づいて、将来の生活や自分らしい生き方を、主体的に選んでいくことができるように、一人一人の主体性に目を向け指導を進めています。

大切にしているのは、自分を大切な存在だと感じられる自己肯定感。生徒は選択と課題解決を繰り返す中で、自己を見つめ、周囲との比較により自分らしさに気付いていきます。

選びとる、解決する、主張できる、自身を知る、という4つの力を大切に、高等部自立活動は、自らを大切に思い、選択、決定に主体的に責任を担う力を育む取組といえます。

周囲に意思や考えを言葉で伝え、周囲との相互作用の中で自己実現を果たしていけるように、生徒一人一人の主体性を支援しています。

〈文責：二階堂 悟〉

教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575



「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>